

<事務局便り>

平成 26 年度炉物理部会運営委員

氏名	役職	所属
中島 健	部会長 (任期 1 年)	京都大学原子炉実験所
吉岡 研一	副部会長 (任期 1 年)	東芝
山本 俊弘	庶務幹事 (任期 1 年)	京都大学原子炉実験所
平岩 宏司	庶務幹事 (任期 2 年)	東芝
北田 孝典	部会等運営委員会担当運営委員	大阪大学
高木 直行	編集委員会担当運営委員	東京都市大学
奥村 啓介	HP 担当幹事	原子力機構
小嶋 健介	HP 担当幹事	原子力機構
中里 道	財務小委員会担当幹事 (任期 1 年)	三菱重工業
菅原 隆徳	財務小委員会担当幹事 (任期 2 年)	原子力機構
儀宝 明德	編集小委員会担当幹事 (任期 1 年)	四国電力
佐野 忠史	編集小委員会担当幹事 (任期 2 年)	京都大学原子炉実験所
吉岡 研一	セミナー小委員会担当幹事 (任期 1 年)	東芝
平岩 宏司	セミナー小委員会担当幹事 (任期 1 年)	東芝
多田 健一	学術交流小委員会担当幹事 (任期 1 年)	原子力機構
羽倉 尚人	学術交流小委員会担当幹事 (任期 2 年)	東京都市大学
吉田 絵美	学生・若手小委員会担当幹事 (任期 1 年)	四電エンジニアリング
相澤 直人	学生・若手小委員会担当幹事 (任期 2 年)	東北大学

(各役職の担当内容については、運営小委員会内規をご覧ください。)

編集小委員会からの御願い

部会報に対するご意見・ご要望などがございましたら、編集小委員会までお知らせ下さい。また、部会報の原稿として、「部会員の声(自由投稿欄):内容不問で自由に投稿・意見を述べられる場」を常時募集しています。また、部会ニュース(ホームページに掲載)の原稿もございましたらお知らせください。

連絡先:編集小委員会(会報担当)

儀宝 明德 gihou15163@yonden.co.jp

佐野 忠史 t-sano@rri.kyoto-u.ac.jp

炉物理部会員の名簿は、日本原子力学会の名簿に基づいて作成しております。学会名簿は、部会報の郵送、部会メーリングリストの発信先Eメールアドレスなどに使用されます。勤務先、メールアドレス等に変更がある場合には、速やかに日本原子力学会に登録情報の変更手続きをして頂くようお願いいたします。

平成 26 年度日本原子力学会秋の大会 第 41 回炉物理部会全体会議議事録

日時：平成 26 年 9 月 9 日（火）12:00-13:00

場所：L 会場（京都大学吉田キャンパス工学部 3 号館 W3）

議事概要

1. 平成 26 年度炉物理部会 部会賞 表彰式

平成 26 年度の炉物理部会賞受賞者に電力中央研究所の鈴木求氏が決定したことが報告され、表彰状が授与された。

2. 平成 26 年度予算実績報告

中里財務小委員会担当幹事より配布資料 41-1 に基づき平成 26 年度の予算実績の報告がなされた。予定通り予算が執行されていることが報告された。

3. 第 46 回炉物理夏期セミナー、若手研究会報告

吉岡セミナー小委員会担当幹事、吉田学生・若手小委員会担当幹事より配布資料 41-2 に基づき、炉物理夏期セミナー、若手研究会について報告がなされた。若手研究会の発表内容の詳細は「炉物理の研究」に掲載される予定となっていることが報告された。

4. PHYSOR2014 の準備状況について

中島部長より配布資料 41-3 に基づき、PHYSOR2014 の準備状況について報告がなされた。運営資金に関しては、黒字化になる見込みであることが報告されるとともに、黒字分については炉物理部会と原子力学会の収入となるとの報告があった。一方、アメリカ原子力学会への黒字分の支払いは不要とのことである。

5. 平成 27 年度予算案について

中里財務小委員会担当幹事より配布資料 41-4 に基づき平成 27 年度の予算案が示され、承認された。日韓合同セミナーの開催を前提としてその旅費を計上しているが、今後の計画次第で変更の可能性があるとのことである。

6. 平成 27 年春の年会の部会企画セッションその他について

多田学術交流小委員会幹事より配布資料 41-5 に基づき、次回の部会企画セッションの候補となるテーマがいくつか示され、「研究炉や臨界実験装置の将来計画や今後のあり方」がテーマとして決定した。また、8 月に行われた 4 部会合同日韓サマースクールについての報告がなされた。

7. 炉物理夏期セミナーテキストについて

多田学術交流小委員会幹事より炉物理夏期セミナーテキストを炉物理部会ホームページ上で公開する案が示された。テキストは有償で販売しているものなので一定の期間をおいてから公開するといった措置や著作権への配慮などが必要との意見が出された。今後、担当幹事より部会メ

ール等で意見を募集することとなった。

8. 日中韓ワークショップについて

中島部会長より配布資料 41-6 に基づき、日中韓ワークショップについて説明がなされた。これについて、

- ・開催頻度によるが、全体として国際会議等での発表機会が増大することから、日中韓ワークショップでは既発表のものでも掘り下げた討論ができるような発表を含めることにすればいいのではないかと意見があった。しかし、この場合、Proceedings への論文掲載に関して二重投稿の懸念がある。
- ・日本での開催に関して京大炉の「炉物理専門研究会」を当てる案がある。このような場合、会議の主催等がどこになるのか？それに伴って、協定締結の日本側の実施主体は炉物理部会なのか京大炉になるのか。韓国側の意向も考慮した検討が必要である。
- ・開催のベネフィットは何かをよく考える必要がある。
- ・中国側の意見も聴くため三か国が面会して相談する必要があるのではないか。
- ・来年は国際会議がいくつか予定されているので負担が大きくなるか。
- ・日本で開催する際の実施体制を決めておく必要がある。

などの意見が出された。今後、メール等で議論を継続し、春の年会までに結論を出す方針が示された。

9. 「炉物理の研究」第 67 号の発行状況

儀宝編集小委員会担当幹事より配布資料 41-7 に基づき「炉物理の研究」第 67 号の目次案の報告がなされた。内容について意見があればお知らせ願いたいとのことである。

10. 4 部会合同日韓サマースクールの来年度開催について

4 部会合同日韓サマースクールを 1 年前倒して来年度開催する案が核データ部会の関係者から提案されている。来年度の炉物理部会の状況を踏まえて中島部会長からコメントするようになるとのことである。

11. 炉物理部会及び核データ部会の声明文について

「我が国における炉物理実験装置の必要性について」と題する声明文を核データ部会と合同で検討することが、岡嶋氏より提案があった。今後、文言等を微修正した最終版を両部会の HP 等で公開するとともに、原子力委員会等への説明に利用することが提案され、承認された。

12. その他

- プログラム編成委員を炉物理部会から新たに 3 名選出する必要があるため協力をお願いしたい。
- 京都大学原子炉実験所の炉物理専門研究会を 12 月 3、4 日に開催する予定である。

以上

編集後記

炉物理部会報の編集に際し、お忙しい中にも関わらず執筆依頼にご快諾くださった方々に心から御礼申し上げます。

巻頭言では、中島部会長より「百聞は一見に如かず？」という題目で一見のための百聞の重要性についてお言葉を頂きました。原子力に関わる技術者だけでなく多くの人々にとって大変重要なお言葉であると思います。

特集記事として、日本で開催された PHYSOR2014 に関して、**Technical Program Chair** の名古屋大学の山本先生に主催者からのご報告、また、学生の方々から参加者からのご報告を頂きました。この一大イベントにおいては、多くの若手の方々が運営に協力できる機会を下さり、たいへん良い経験となったと思います。

また、2つ目の特集記事として、**JAEA** の多田様、東京都市大学の羽倉先生には炉物理分野の人材育成の現状と課題に関しアンケート結果を多岐に渡る観点から報告書としてまとめて下さりました。多くの方々にご一読いただくことで、炉物理部会だけでなく原子力業界の今後の糧になることを期待しています。

2013 年度末には炉物理部会に関係して 3 件の原子力学会賞、2014 年度には 1 件の炉物理部会賞の受賞あり、受賞者の方々から記念寄稿を頂きました。特に若手の方々に炉物理の面白さを知る良い機会になることを期待しています。

私事ではありますが、家庭の事情で 2015 年 2 月末に 14 年間勤めた四国電力(株)を退職いたしました。年齢的にも、福島事故後の伊方発電所の再稼働に向けても、これからというときに原子炉物理を扱う現場を後にするのは大変心苦しく、また、これまでお世話になった多くの方々にも申し訳なく思いつつ、家庭を優先することにいたしました。しかし、退職に際し、炉物理部会の多くの方々から暖かい応援のお言葉をたくさん頂き、炉物理部会を通して本当に良き方々に出会えたことは大きな財産だと心から思っています。今後、違う地で新たな道を歩み始めますが、微力ながら少しでも炉物理部会に貢献し続けられればと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

編集小委員会 儀宝明德